

編集後記 キャッチボール

新型コロナの感染拡大が落ち着いた頃を見計らって、最近久しぶりに少年野球のコーチをしていた時分のコーチ仲間や

父兄何人かでお酒を酌み交わす機会がありました。楽しい思い出話は何よりのお酒のあてです。(^^)

少年野球のコーチといっても遊びでしか野球の経験のない僕の主なミッションは、他の学年のチームの練習のエリアにボールがいかないよう、キャッチボールやノックを受ける子どもたちの球拾いでした。

たまに守備練習のノックをする機会があったのですが、思った所にボールがいかないこともしばしば。

「ハイ、ショート！」って言って打ったボールがサードに飛んでいたり、「レフト行くぞ！」って言って打ったらライナーになってショートの選手の頭をかすめて、「おらショート気を抜くなよ！」って言ったりするものだから、僕がノックバットを持つとどこに飛んでくるかわからないぞという妙な緊張感が選手たちに走っていました。内心は、「ごつめーん！あっはっはー」でした。(▽▽;)

一番好きな練習が「キャッチボール」でした。

キャッチボールは野球の基本です。なにしろボールを捕って投げるというのが基本動作ですからね。

相手にボールを投げ返すときは、相手の胸に向かって投げろといひます。

その方が相手がボールを捕りやすいし、その後の投球動作にスムーズに入れるからです。

野球は一人ではできないスポーツ。相手のことを考えながらプレイするということ自体が、基本といえるのかもしれないですね。キャッチボールが楽しいのは、そんな気持ちのやり取りがあるからだと思います。

コミュニケーションがよくこの「キャッチボール」に例えられるのも頷けます。

明治安田生命が2月6日発表したアンケート調査の結果によると、この春に社会人になる学生のうち、「上司との業務外でのコミュニケーションが必要」と考えている人が5割弱もいると話題になりました。業務外でのコミュニケーションが必要と考える理由については、「距離が縮まり、仕事が円滑になる」が74.6%、「業務中に聞けない仕事のヒントやアイデアを聞くことができる」が49.6%だったそうです。

コミュニケーションの語源はラテン語の「**Communis** (コミュナス)」です。

そしてその「コミュナス」の意味は「共有」。コミュニケーションは、「会話」だと思われがちですが、聞いたことに答えるだけなら、Siri (シリ) やアレクサといった音声アシスタントと同じこと。

語源が示すように、**意識や気持ちの「共有」がコミュニケーションの本来の意味するところ**なのです。

皆さんも、先ほどのアンケートのように「仕事のヒントやアイデア」を若い従業員から質問されることがあるかもしれません。そんな時は単に質問に答えるのではなく、なぜそんなことを聞きたいのか、それを聞いてどうしたいのか、そんな相手の思いを気に留めながらお話をしてくださいね。単に聞かれたことに「答える」だけに留まらず、それが質問者の期待に「**応える**」ことに繋がると思うからです。

そんなやり取りは、どこか相手の気持ちを意識して投げるキャッチボールにやはり似ている気がします。

野球初心者の子も相手にキャッチボールをする時は、どうか野球を好きになってほしいと願いを込めて、捕りやすいように、投げやすいようにキャッチボールをしていました。

野球も仕事も一人ではできません。相手のことを互いに思いあうキャッチボールのようなやり取りの積み重ねが、職場の信頼関係を深めることになるのではないのでしょうか。(^^)

少子化もあり僕がコーチをしていた時分よりはずいぶん野球をやる子どもたちが減っているそうです。

3月から始まるWBCの日本代表の活躍で、野球に興味を持ってくれる子どもたちが増えることを期待しています。かつて恐怖のノックと恐れられた、ダメな元少年野球コーチの願いです。(^-)-☆

